



「平和祈念堂」「摩文仁の丘」「健児の塔」「ひめゆりの塔」「旧海軍司令部壕」など、沖縄戦慰霊の地を訪問した子どもたち。事前研修などで、手づくりの千羽鶴2組を折りあげ、現地で折りとともに捧げました。8月23日の解団式では、沖縄で体感した感想文を書きました。



香々地の青い海を舞台に無心で遊びました。途切れることのない、打ち寄せる波。いつまでも飽きることのない、子どもたちの砂浜。



少年のバスで国東半島へ 海の子になった三日間。

バスにゆられて故郷を離れ、子どもたちが初めての環境で生活体験をする「少年のバス」。福智町青少年育成町民会議が主催する事業です。7月27日に町内の小学4年生・中学2年生59人を乗せたバスは、大分県の豊後高田市に到着。大分県立香々地青少年の家で、2泊3日の間、子どもたちは学年も学校も違う7班で集団生活をしました。今回は、「遊びを楽しむ」という目標が掲げられた少年のバスですが、それにはすべて団

体で、班で行動するという決まりがあります。国東半島の北、周防灘に面したここ香々地は、海と山に囲まれ、遊んで学ぶには絶好の場所でした。子どもたちは輝く太陽の下で、地引き網や海水浴、ウオーケリーなどの野外活動を体験し、故郷にはない海で、仲間たちとの多くの発見に胸を躍らせてました。

ふくちの夏、体験した夏。



印象に残った地引き網。数百匹の沖に張る網を共同作業でたくり寄せます。タイやハマチなど大漁でした。



少年の翼で 碧き美ら島 沖縄へ。

旧方城町から数えて14回目の夏を迎えた「少年の翼」。沖縄県中城村の子どもたちと互いに訪問し合い、交流を深めながら視野を広げる交流事業実行委員会主催の事業です。8月18日に町内の小学5～6年生24人が、町章入りの帽子とそろいのTシャツを着用して福岡を出発。空路で沖縄入りしました。子どもたちは20日まで、中城村の同世代の家庭で2泊のホームステイ。初日は首里城を見学した後、中城村で伝統芸能による歓迎を受けました。2日目は中城村の子どもたちと万座毛、美ら海水族館、中城城を見学。3日目は沖縄戦の慰霊の地を訪れ、戦争の悲惨さを痛感しながら戦に献花しました。子どもたちが琉球文化に触れ、命の尊さを体感した3日間。5日間の事前研修と結団式、解団式での学習も含めて、沖縄がいまに訴えかける平和へのメッセージを深く受け止めました。

ふくちの夏、感動した夏。

INTERVIEW

実際の戦地跡で戦争の残酷さと犠牲の多さを実感しました。平和と命の尊さを改めて感じました。



団長をつとめた 紫村 彩乃さん(神崎)

INTERVIEW

初めて参加しました。地引網など貴重な体験を通して、自然の大切さや自主性を学ぶことができました。



代表をつとめた 滝本 聖史郎くん(伊方)



世界遺産の「首里城」や「中城城」をはじめ「万座毛」「美ら海水族館」などの観光地をホームステイ先のお友だちと見学。中城村での交流会では、沖縄に伝わる伝統芸能「エイサー」で歓迎されました。

